

2.2.3 水害の歴史および備える知恵

東近江圏域における水害の歴史を詳細に把握するために、竜王町弓削地区、東近江市葛巻地区で水害体験に関するヒアリングを行いました。ヒアリングでは、水害発生時の様子として、決壊・越水した場所や浸水範囲、浸水時の水の流れなど、また、水害に備える知恵として、避難判断の目安や住まい方の工夫などを、住民の方を対象に聞き取り調査を実施しました。聞き取り調査結果を表 2.2.1、表 2.2.2 に、また、水害マップにまとめます。

表 2.2.1 聞き取り調査内容一覧 (1/2)

	弓削地区	葛巻地区
調査実施日	2009年8月19日(水)	2010年2月1日(月)
場所	竜王町弓削公民館	東近江市葛巻公民館
対象人数	4名	10名
水害情報	<p><u>①明治29年台風</u> 日野川弓削地先で決壊した。</p> <p><u>②昭和28年台風13号</u> 祖父川の決壊で弓削地区が浸水した。弓削地区は堤防に囲まれているため、排水する箇所がない。堤防から手が洗えるくらい、水位が上昇していた。</p> <p><u>③昭和34年伊勢湾台風</u> 2日間くらい浸水していた。浸水したら、一番に牛を避難させた。床上浸水した家が3軒あった。</p>	<p><u>①昭和28年台風13号</u> 日野川左岸の霞堤(上原)と法教寺川左岸の樋門付近で破堤した。葛巻地区で5件ほど浸水を免れた家があった。</p> <p><u>②昭和34年台風7号</u> 日野川左岸の霞堤(上原)が決壊した。決壊後30分~40分で集落に水が押し寄せた。10時30分頃、集落が浸水し始め、12時30分頃浸水がピークを迎えた。</p> <p><u>③昭和34年伊勢湾台風</u> 台風7号の影響により日野川左岸の霞堤(上原)が決壊した。堤防を仮復旧している際に伊勢湾台風が襲来した。過去2回の水害と比べると、一番浸水深が深かった。</p>
水害に備える知恵	<p><u>①田舟</u> 浸水時には田舟を避難や救助用に利用していた。</p> <p><u>②避難の目安としている場所</u> 奥ノ河原が冠水すると避難の目安としている人達もいる。</p> <p><u>③半鐘</u> 堤防が決壊するときは、半鐘を鳴らした。</p> <p><u>④北風</u> 日野のわだぶき山という山に北風で大雨が降ったら、水が増える</p> <p><u>⑤火焚き</u> 火を焚いたりして、堤防の中を監視している(魔よけ)</p> <p><u>⑥米の貯蔵</u> 水害を想定して、1年分くらいは余分に米を持っておく必要がある。</p>	<p><u>①切石(現在は樋門)</u> 日野川合流点付近の法教寺川左岸に、水を排出する水害用の切石の樋門が設置されている。水害時には消防団が開閉を管理する。普段は法教寺川から逆流しないように、石で塞がれている。</p> <p><u>②水害防備林</u> 水害防備林が集落を守るように囲んでいる。</p> <p><u>③横堤(現在は県道)</u> 葛巻の表(現在の県道)に、建設されていた。堰堤が危険な状態になると避難を判断した。</p> <p><u>④石垣</u> 人家は石垣等で地盤を高くしている。</p> <p><u>⑤避難の目安になる場所</u> 日野川橋下流のネムの木(現在はなし)の根本まで浸水したら、日野川橋、休憩する場所に近づかない。 また、法教寺川右岸堤防のブロックの上から1段半まで水位が上昇すると、鐘を鳴らして、集落に危険を知らせた。</p> <p><u>⑥堤防の見回り</u> 堤防の見回りは3人体制で行った。</p> <p><u>⑦樋打番(現在は廃止)</u> 日野川の水を竜王町へ流す水路が2本流れており、それらの樋門を閉める権利を持つ役員が住民より決められる。</p> <p><u>⑧荷物の保管場所</u> 大水になると、ツシや屋敷の高いところに食料や大事なものを運ぶ。</p>

表 2.2.2 聞き取り調査内容一覧 (2/2)

	小口地区	その他(日野川水害マップの情報等)
調査実施日	2009年8月3日	—
場所	小口公民館	—
対象人数	3名	—
水害情報	<p><u>①昭和9年室戸台風</u> 竹山と呼ばれている山の材木が倒れた。雨よりも風が強かった。</p> <p><u>②昭和19年台風</u> 10月7日、夜に集中豪雨。午後11時30分頃、祖父川右岸、小口地先の堤防が決壊した。堤防に警戒に行ったが、危険水位に達していないと判断し、避難の呼びかけを行っていなかった。決壊場所は、小口八重谷が右岸堤防と交差する地点の堤防。人的被害は、子ども一人死亡。物的被害は、家屋流出3軒、土砂に埋まった家5軒、床上または床下浸水約30軒家屋の流出2軒、床上または床下浸水は約30戸。</p> <p><u>③昭和28年台風13号</u> 祖父川の警戒水位を超えた。昭和19年の教訓から、祖父川の堤防に土嚢を積むなどの対策が行われた。</p> <p><u>④その他</u> 祖父川左岸は、1年に2回くらい、真気神社参道から田まで、一面に水がついた。</p>	<p><u>A 昭和28年</u> 日野川右岸(祖父川合流点付近)で決壊した。(弓削)</p> <p><u>B 昭和33年</u> 合戸付近で越水した。(葛巻)</p> <p><u>● 昭和34年</u> C 浄土寺で2箇所決壊した。(弓削) D 川守地区で日野川右岸が決壊した。(葛巻) E 日野川、佐久良川合流点左岸で決壊した。(葛巻)</p> <p><u>F 昭和36年</u> 新川が弓削と須恵の間のあたりで決壊した。(弓削)</p>
水害に備える知恵	<p><u>①堤防の見回り</u> 雨が降ったら、祖父川を巡回し、警戒にあたる。</p> <p><u>②水害防備林</u> 祖父川と集落の間に、水害防備林と松林があった。</p> <p><u>③溜める場所</u> 竜王橋の左岸に、水を溜める場所がある。大水の時、川原が水でいっぱいになったが、川原の水が全部この溜めに流れ、田んぼに水が流れるのを防いだ。</p> <p><u>④避難場所</u> 善法寺は、地盤が高い。そのため、水害の時に、避難した人がいる。</p> <p><u>⑤危険な箇所</u> 中ノ川と祖父川の合流点は、よく砂が溜まる。スムーズに水が流れないと、水が溜まるので怖い。</p>	<p><u>A 避難の目安としている場所</u> お地藏さんの高さまで浸水すると、避難の目安としている人たちもいる。</p>

弓削地区水害経験と備える知恵（詳細版）

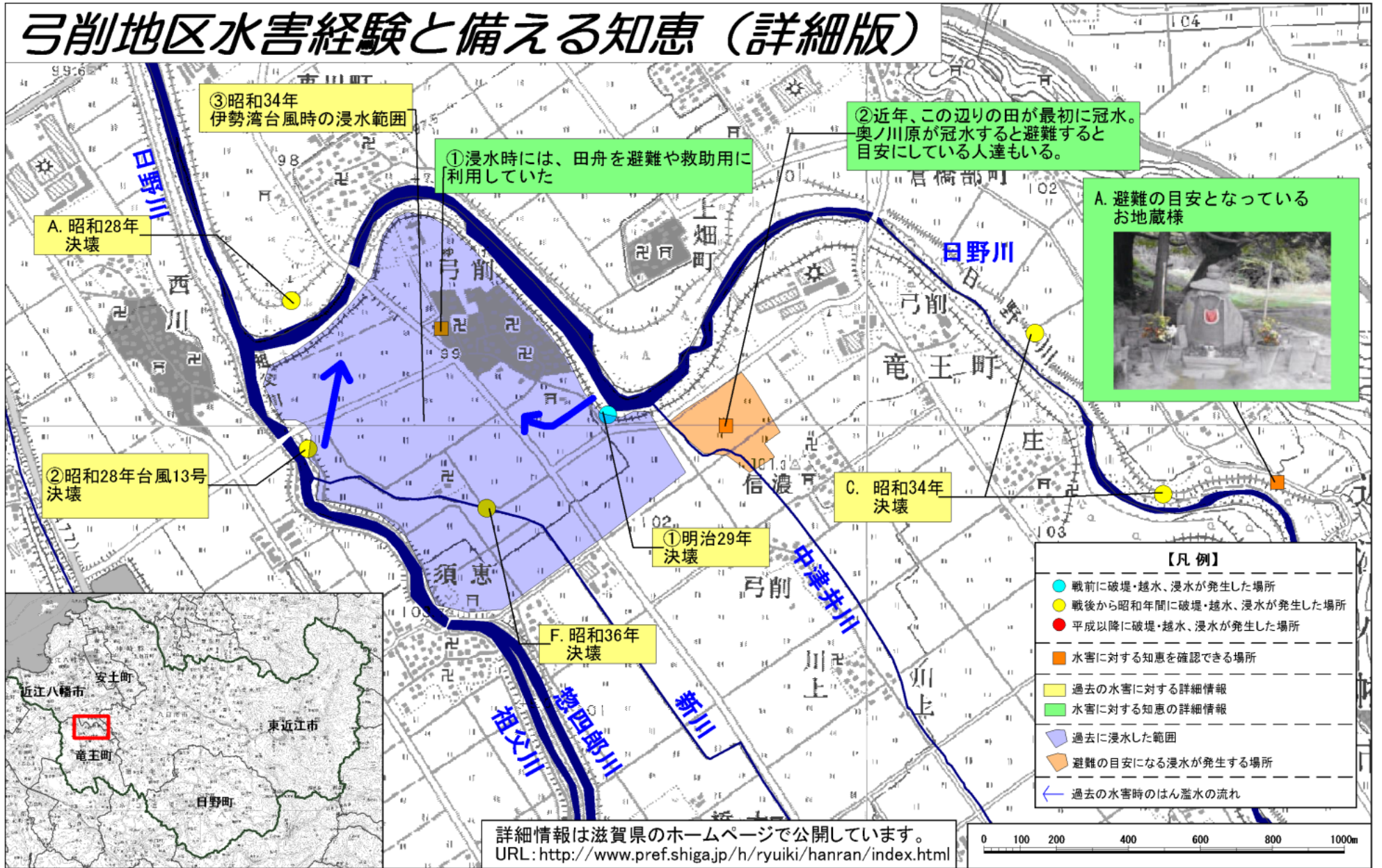


図 2.2.4 弓削地区水害マップ

葛巻地区水害経験と備える知恵（詳細版）

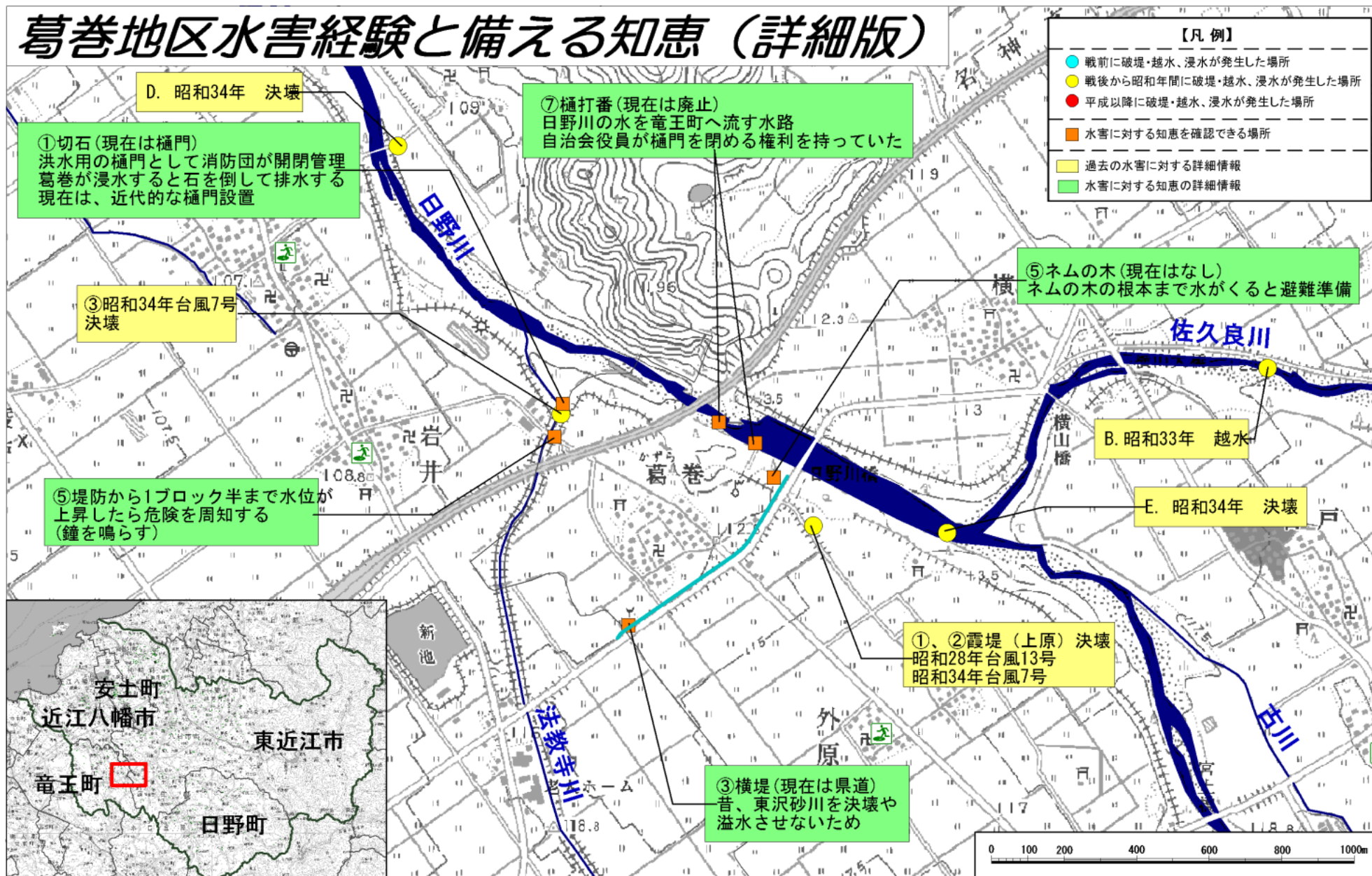


図 2.2.5 葛巻地区水害マップ